



蒲小だより

未来を拓く児童の育成



文責 校長 山本 智文

今年度も「第59回交通安全子供自転車広島県大会」に参加しました！

6月22日(土)に、今年度も本校の5・6年生の代表児童が選手として出場しました。5月から大会出場に向け練習を開始しました。子どもたちは、毎日、放課後、一生懸命練習に励みました。誰一人、手を抜くことなく、自転車をこぎ続けました。広警察署管内の小学校の代表として、昨年度より少しでも良い成績をあげようと努力し続けました。下蒲刈駐在所の加計警部補さんと蒲刈駐在所の井上巡査部長さんから指導を受け、技術を向上させていきました。お二人の熱心なご指導のもと、子どもたちはめきめきと上達していきました。今年度は、元下蒲刈中学校の体育館をお借りし、屋内で練習をすることができました。天気を気にすることなく毎日練習を積み重ねることができたことは、本当にありがたいことだと思いました。

大会は、広島市西区商工センター内の広島市中小企業会館で行われました。会場はとても広く、実技試験の準備が整えられていました。まず、9時30分から「学科テスト」が30分間行われました。その後、開会式が行われ、いよいよ実技協議(安全走行・技能走行)の開始です。代表選手はグループに分かれ、実技協議にチャレンジしました。たくさんの観衆の中でも誰一人臆することなく持てる力を発揮することができました。最後まで集中して競技に臨む子どもたちの姿を観ていて、心が熱くなったのは私だけではないと思います。

そして、いよいよ閉会式での「成績発表」。まず、団体の部の成績が発表されました。優秀賞の3校の学校名が順番に読み上げられました。「福山市立中条小学校」「北広島町立芸北小学校」「福山市立神辺小学校」。蒲刈小学校の名前は上がりませんでした。「う～ん、だめかー。」続いて3位から1位の学校名が読み上げられました。「**第3位 呉市立蒲刈小学校！**」この言葉が飛び込んできたとき、私たちの応援席では大歓声があがりました。感動の嵐です。その後、主催者の方から「賞状」と「楯」「副賞のヘルメット」等が子どもたちに手渡されました。昨年度は「優秀賞(6位)」でしたが、順位を上げました。子どもたちの力って、ほんとうにすごいと思いました。「やればできる。必ずできる。やろうと思えば必ずできる。」です。個人の部では、6年生の井上和波さんが「敢闘賞」を受賞しました。すごいことだと思います。「努力は、うらぎらない！」です。私は、昨年度の学習発表会の最後のあいさつで次のようなことをお話ししました。「**長年、私は教員をやっていますが、いつも思うことがあります。それは『子どもたちは行事を通して大きく成長していく』ということです。だから、私たち教員は一丸となって行事と向き合います。』と。**

閉会式終了後、みんなで記念写真を撮りました。この大会に関わったみんなのすがすがしい表情を忘れることができません。「さすがです。子どもたち。おめでとう、蒲小健児」この経験を通して、子どもたちは大きな自信をつかんだことでしょう。子どもたちの成長に関わっていただきました多くの方々に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。さて、次は何に挑戦しようかな・・・。



【実技競技の様子】



【記念写真】

地域の方とグランドゴルフ交流！

7月4日(木)の1・2校時に、3・4年生が地域の老人クラブの方々とグランドゴルフを通して交流しました。総合的な学習の時間の学習活動「やさしい」の企画に係り計画・実行しました。今回のグランドゴルフの交流を通して、子どもたちが、お年寄りの方々が蒲刈の地で生き生きと暮らしておられる姿を体感することで、「地域を発展させるために貢献してくれたり、自分たちの成長を支えてくれたりした方々に感謝の気持ちをもつ」ことを学習の柱として、今自分ができるところを考える機会といたく計画しました。蒲刈小学校では、今年度も、子どもたちに「生き方学習」の一環として、蒲刈町・下蒲刈町の「ヒト」「モノ」「コト」に出会わせることで、自分たちの住んでいる地域に目を向けさせ、地域で生きることの価値に気づき、自分の生き方につなげさせていくために取組を進めています。子どもたちは、事前にグランドゴルフの練習をさせていただきました。当日は、練習の成果を生かし地域の方々と楽しく素敵な時間を過ごすことができました。その後、体育館で子どもたちが企画した「感謝の会“かま小ニコニコ感謝大作戦”」に老人クラブの方々をお招きし、子どもたちの考えたクイズやゲーム等を行い、感謝の気持ちを伝えていきました。私も参加しましたが、**子どもたちのなんとも言えない表情や地域の方々の子どもたちを思いやる温かい声掛け**等がとても印象に残りました。この経験を、今後の学習等につなげ生かしていきます。今後もさまざまな企画を通して、子どもたちに**「真の学び」**に出会わせていきます。しかけていきます！



【最後はタッチでお別れ】

「学校まると美術館」スタート！

今年度から、蒲刈小学校では**「学校まると美術館」**を企画しスタートさせました。



子どもたちが図画工作科等の時間に制作した絵画を額に入れて校舎内に掲示しています。一般的には、子どもたちの制作した作品は、教室内に掲示しますが、子どもたちの作品を教室掲示から校舎内掲示へと移行しました。校舎内のいたる所に子どもたちの表現した絵画が掲示されています。とても温かい雰囲気に包まれています。自分の作品の工夫点を改めて振り返ってみたり、友だちの作品のよさを発見したりすることができます。

ここで、美術鑑賞の効果・メリットを6つ紹介します。①「想像力が磨かれる」②「心が癒される」③「表現力が豊かになる」④「直感力が鍛えられる」⑤「美意識が高まる」⑥「多様性を受け入れられるようになる」です。今後は、定期的に子どもたちの作品を入れ替えることにより、全校児童の作品を鑑賞できるようにしかけていきます。ぜひ、ご来校いただき、子どもたちの作品を鑑賞してみてください。



下蒲刈町の「公益法人 蘭島文化振興財団 様」から、絵画「梶原宣弘(かじわらのふひろ)作『犬の散歩』」をお借りし、本校玄関内に展示させていただいております。思わず梶原宣弘の世界に引き込まれていきます。子どもたちは、学校にいないながら本物の絵画を鑑賞することができます。

このように、本校では、絵画のもつ世界の力を借りて“子どもたちの感性”を高めていきます。

次は、どんな企画にうって出ようかな。楽しみ、楽しみ...



“激励”からの脱却 ～“やらされる”から“やる”への転換！～

一般的に、「激励」とは、「しっかりやれ！」と元気づけることを指します。しかし、「大丈夫だ。うまくいくよ。根性出せ。がんばれよ！」と現状に向き合わずに言葉だけの励ましでは、かえって不安を与えてしまうことになります。

では、体育の授業の中での子どもと教師との会話について、NG会話と、OK会話の例をあげて話をしてみます。

◆NG会話◆

教師「山本くん、どうした？ 開脚後転、できるようになったか？」

山本「無理！」

教師「なんだ、その口のきき方は！」

山本「先生に言われた通り、家の布団の上で練習したんですけど、全然できないんです。」

教師「できないものは、もうクラスで山本くんだけだからな！ がんばれよ！」

山本「えーっ、はい..。(えっ、ぼくだけ？ ありえない...。)

教師「いいか、こうして、それからこうして、ここがポイントだからな！ いいな！ 次の体育の時間、テストするからな！」

山本「あっ、はい...。(いやだな..。何でそこまでやらなくちゃいけないの?)」

教師「昼休みに友だちにみてもらって気合い入れて練習しとけよ！ しっかりと！ やる気出せよ！ いいな！ がんばれ！」

山本「あっ、はい...。(ああ、やだなあ..。どうしよう..。でも、やる気出ないよなあ...。)

【NG会話解説】

「練習したのにできない」という情報から切り替えができたであろうに、教師がキャッチできずに聞き流しています。そして、山本くんの状況を受け止めることなくプレッシャーと上辺だけの激励により、不安感を増幅させ、やる気を減退させてしまっています。

♥OK会話♥

教師「山本くん！ どうした？ 開脚後転、できるようになったか？」

山本「無理！」

教師「どこらへんが無理なんだ？」

【ポイント】

👉「同じ言葉を引用し、“親近感”、“つながり感”をつくる。言葉のリズムも同調する。

山本「先生、できるような気がしないんです。もともと、ぼく、マット運動が苦手なんです。」

教師「そうか、何かトライしてみた？」

山本「先生に言われた通り、家でも布団の上で練習したんですけど、できないんです...。」

教師「おおっ、すごい。布団で練習したんだ！ できるところはどこ？」

【ポイント】

👉承認する。感情を表す。できるところを聴くことで、山本くんができないところを分析できる。

※「承認」・・・一定の事実を認めること。聞き入れること。

👉自己を肯定的にとらえさせる。

山本「前転はできます。」

教師「そうか！ いいねえ。では、難しいと思うところは？」

山本「足を開くタイミングかなあ。それから、膝が曲がっちゃうんです。」

教師「回転の速さは、どう？」

山本「的場くんとかと比べると、ぼくはかなり遅いかも。」

教師「回転速度ね..。他に思い当たるところはある？」

山本「う～ん、そういえば、腕で押しなさいって言われていたけど、けっこう、これもできていないかなあ。」

教師「なんだ、ずいぶん分かっているじゃないか。山本くん、さすがだねえ！」「さて、どうすればできるようになると思う？」

山本「やっぱり、練習かな。」

教師「力になってくれる友だち、いる？」

山本「的場くんや清水くん、住元くんなら付き合ってくれると思います。でも、その前に自分でまずやってみます。ぼく、あまり練習しなかったからできないのかもしれない。」

教師「そうか。山本くんならきっとできるようになるよ。」「で、いつやる？ 決まったら報告してね。待ってるよ。」

何もしかけずに子どもが行動を積極的に起こすことは、まず少ないと考えておかねばならないと考えています。しかしながら、子どもからやる気を引き出すことは可能です。「押し付けや命令」ではなく、自分で行動を決めさせる（自己決定）のです。これは、ひとえに「現実をとらえ」「自分の行動を納得させる」ことでもあります。そして、納得すれば自発的に動き出すのです。蒲刈小学校では、この“自分で行動を決めさせる（自己決定）”の場をしくんでいきたいと考えています。

特別非常勤講師の指導を受けて！

今年度も「書写」と「図画工作科」の時間に、増田育世先生と千田 禅先生に計画的に指導に入っていただいております。増田育世先生には3年生以上の「書写」を、千田 禅先生には全学年の「図画工作科」の指導に熱心に関わっていただいております。子どもたちにとって、専門的な指導を受けることのできる貴重な時間となっています。右の写真は、3・4年生が指導を受けている場面です。千田先生のちょっとした声掛けで見る見る素敵な作品に仕上げていく子どもたちです。「本物に出会わせることの大切さ」をひしひしと感じているところです。



指導にあたる千田先生

ふれあい給食（給食試食会）！

「食」に関する保護者啓発を図るために、毎日食べている給食について調理から配ぜん、食事の様子までを保護者に知らせることを目的として、6月の参観日の日に「ふれあい給食」を実施しました。

これまでは、コロナ禍にあったため実施できませんでしたが、ようやく実施できましたこと、学校としまして大変喜んでいるところです。当日は、多くの保護者の方々に参加していただきました。食事中に給食ができるまでの様子を紹介する資料



映像を流しました。保護者の方々からは、「子どもたちが毎日、こんな風にして給食を食べていたんだと改めて知ることができました。」「うちでは豆を食べないのに、学校ではちゃんと食べているのでびっくりしました。」等の感想をいただきました。「百聞は一見にしかず」ですね。これからも本校の取組を発信していかなければならないと考えさせられた取組となりました。保護者の皆様、ありがとうございました。

